

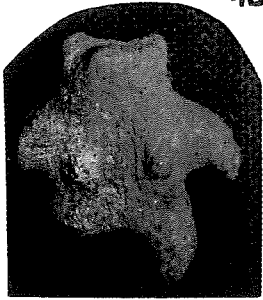
く 八幡平クマ牧場クマ支援 ぐ

北海道伊達市噴火湾文化研究所所長・札幌医科大学客員教授

大島直行さん講演会

「縄文人の神話的世界と熊」

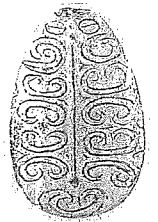
—熊は恐ろしさの象徴か、それとも・・・—



クマ土偶



子この足型



2012年9月15日(土) 秋田市・遊学舎

午後3時開場、3時30分～5時30分(講演会と参加者との対話)

2012年9月16日(日) 鹿角市・大湯ストーンサークル館

午後3時開場、3時30分～5時30分(講演会と参加者との対話)

参加費 両日共に資料代500円 (問合せ) 080-6051-4134

ご招待 被災地から避難してきてくださっている皆さん

主催 クマとも (八幡平クマ牧場のクマと共に)

協力 くまんち(会津の熊保護施設) / ふくしまいのちの森 / 白

神山地アートミュージアム / 福島秋田 子この楽園

米代川水系遺跡研究会(代表 佐藤喜美男)

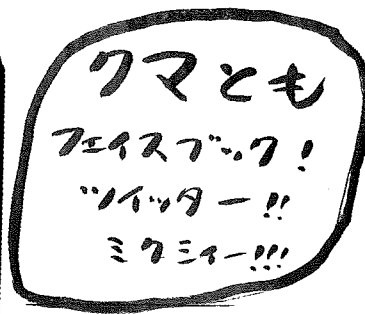
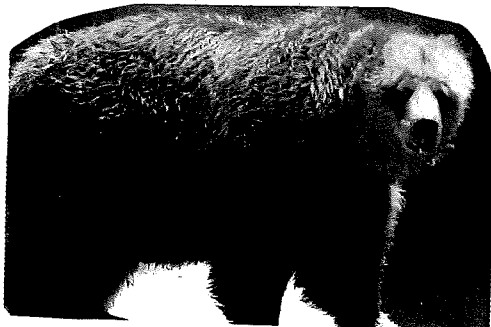
大島直行(おおしまなおゆき)さんのプロフィール



札幌医科大学客員教授。伊達市噴火湾文化研究所所長。1950(昭和25)年、北海道釧路管内標茶町生まれ。東洋大学文学部史学科卒業後、千歳市役所を経て、札幌医科大学助手として人類学、解剖学を研究。1995(平成7)年より、伊達市にて史跡・北黄金貝塚の整備、遺跡調査に携わるほか、全国初の行政による研究所を立ち上げ、音楽や絵画などの芸術をも含む総合文化行政に直接的に関わってきた。縄文人の「心」に迫るため、従来の考古学の枠を越え、文化人類学、宗教学、民俗学を援用した考古学研究に挑む。縄文文化を新たな視点で読み解き、縄文とアイヌに共通する高い精神性に着目した研究を展開する一方で、その成果を普及・啓発するため、北海道各地において、市民縄文会の設立に尽力している。日本考古学協会前理事、日本人類学会評議員、医学博士。

『対話・文明の原理を問う』(共著、麗澤大学出版会 / 2011年) 北の縄文連続講座・記録集「縄文人はどこから来たか?」編・刊 / 北の縄文文化を発信する会(共著、(株)インテリジェントリンク / 2011年)

く 後援 ぐ
北秋田市
教育委員会



北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県は、日本の基層文化である縄文文化が祭りや語り、自然と暮らしの中で生き続ける地域です。先人からの贈り物である縄文遺跡群を人類共通の未来へ残すべき文化遺産と考え、世界遺産登録をめざしています。

クマは縄文以来、豊穡の森のシンボルとして畏敬され、万能の神として祈りの対象になりました。「クマとも」は、閉園された八幡平クマ牧場で生きる27頭のクマや、野生のクマと共に生きることが、縄文文化を今に受け継ぐことだと活動しています。

